

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、2月の予察情報を送付します。

病害虫発生予報（2月）

令和 6 年 1 月 31 日
愛 媛 県

1 気象予報（高松地方气象台）

1か月予報 1月25日発表（1月27日～2月26日）

< 予報のポイント >

- ・寒気の影響を受けにくいとため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

< 1か月の平均気温・降水量・日照時間 >

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
四国地方	低 10 並 20 高 70% 高い見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み

2 病害虫の発生予想

キウイフルーツ

(1) かいよう病

ア 予報の内容 発生注意

イ 予報の根拠

- (ア) 1月の定点調査におけるヘイワードの枝幹部調査では、赤褐色の樹液漏出は未確認である。
- (イ) 気象予報では、気温は高いとされており、樹液漏出時期は早いとみられる。
- (ウ) 低温による凍結被害を受けた園地では、被害部分より樹液が漏出し、周辺樹へ感染することがあるので注意する。

ウ 防除上の注意

- (ア) 園地見廻りにより、本病による樹液の漏出の早期発見と病徴部の早期除去を行う。伐採基準は、平成31年3月改訂の「キウイフルーツかいよう病 Psa3 型の防除方針」に基づき、発病程度に応じて適切に対応する。
- (イ) 園地の防風対策を強化する。
- (ウ) 剪定後及び発芽前に、薬剤を散布する。特に、剪定による枝・幹の切り口等からの感染を防止するため、剪定後の薬剤散布を徹底する。

野 菜

(1) 黄化えそ病（冬春きゅうり）

ア 予報の内容 発生量：並

イ 予報の根拠

- (ア) 1月中旬の調査では、発生は未確認である。
- (イ) 媒介虫のミナミキイロアザミウマの発生は、未確認である。
- (ウ) 気象予報では、気温は高いとされており、媒介虫のミナミキイロアザミウマの発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

- (ア) 発病株は直ちに抜き取り適切に処分する。

- (イ) 媒介虫の卵・蛹には薬剤の効果が劣るので、発生圃場では発生に応じて2～3回防除する。
- (ロ) 媒介虫は雑草等でも増殖するので、圃場内の除草を徹底する。

(2) ベと病（冬春きゅうり）

ア 予報の内容 発生量：やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 1月中旬の調査では、平年並の発生である。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多いとされており、発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

- (ア) 換気を行い、ハウス内の除湿に努める。
- (イ) 草勢の低下は発病を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (ロ) 老化葉や発病葉は、早めに除去する。
- (エ) 発病初期の防除に重点を置き、薬剤が葉裏の菌叢に十分かかるよう丁寧に散布する。

(3) うどんこ病（冬春いちご）

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 1月中旬の調査では、葉・果実ともに平年並の発生である。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多いとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

- (ア) 伝染源となる発病葉・果実、古葉はできる限り除去し、通風と薬剤の付着性を高める。
- (イ) 果実発病が中心となるため、発病初期の防除に重点を置く。
- (ロ) 薬剤散布に当たっては、展着剤を必ず加用し、葉裏や芽の間隙部に薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

(4) 灰色かび病（冬春トマト、冬春きゅうり、冬春いちご）

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 1月中旬の調査では、冬春いちご、冬春きゅうり及び冬春トマトともに平年並の発生である。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多いとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

- (ア) 天気の良い日は、換気を行い、ハウス内の除湿に努める。
- (イ) 過繁茂や軟弱な生育は発病を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (ロ) 発病果や枯死茎葉は伝染源となるため、早めに除去する。

(5) 白色疫病（たまねぎ）

ア 予報の内容 発生量：並

イ 予報の根拠

- (ア) 1月中下旬に早どり栽培を対象に広域調査を行った結果、発生を認めていない。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多いとされており、発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

- (ア) 圃場観察を十分行い、早期発見に努める。特に、毎年発生している圃場では注意する。
- (イ) 排水不良の圃場で発生が多いため、降雨後の排水に努める。
- (ロ) 発病葉や枯死した葉は感染源となるので、適切に処分する。
- (エ) 本病原菌は水媒伝染するため、降雨前後の防除が重要となる。
- (オ) たまねぎの葉は薬剤の付着性が悪いため、展着剤を加用し、丁寧に散布する。

(6) ハダニ類 (冬春いちご)

ア 予報の内容 発生量：やや多

イ 予報の根拠

(ア) 1月中旬の調査では、平年並の発生である。

(イ) 気象予報では、気温は高いとされており、発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 圃場観察を行い、早期発見に努め、発生が認められたら早めに防除する。また、同一系統の薬剤の連用を避け、気門封鎖剤を含め、ローテーション使用を心掛ける。

(イ) 天敵導入圃場では、薬剤の選択に留意する。

(7) アブラムシ類 (冬春いちご)

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

(ア) 1月中旬の調査では、平年並の発生である。

(イ) 気象予報では、気温は高いとされており、発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 圃場観察を行い、早期発見に努め、発生が認められたら早めに防除する。

(イ) 天敵導入圃場では、薬剤の選択に留意する。

(8) アザミウマ類 (冬春いちご)

ア 予報の内容 発生量：やや多

イ 予報の根拠

(ア) 1月中旬の調査では、寄生花率、1花当たりの寄生虫数ともに平年並の発生である。

(イ) 気象予報では、気温は高いとされており、発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 発生が認められたら早めに防除する。

(イ) 雑草等でも増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。

(ウ) ハウス開口部に防虫ネットを被覆し、成虫の侵入抑制を図る。

(9) コナジラミ類 (冬春トマト、冬春いちご)

ア 予報の内容 発生量：冬春トマト 並
発生量：冬春いちご 並～やや多

イ 予報の根拠

(ア) 1月中旬の調査では、冬春トマトはタバココナジラミ、オンシツコナジラミともに発生を確認していない。冬春いちごではタバココナジラミは並、オンシツコナジラミは少の発生である。

(イ) 気象予報では、気温は高いとされており、発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 薬剤が葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(イ) 雑草等でも増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。

(ウ) タバココナジラミは、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので発生に注意する。

【病害虫発生予察情報】

ホーム > 仕事・産業・観光 > 農業 > 鳥獣害・病害虫対策 > 愛媛県病害虫防除所
ホームページアドレスは

<http://www.pref.ehime.jp/h35118/2406/byocyubojo/index.html>

【農薬使用時の注意】

- ◎農薬の選定にあたっては、農薬取締法に基づき登録された農薬から選定しましょう。
- ◎農作物の安全性を確保するため、農薬の使用にあたっては、適用作物、使用回数、使用時期、使用濃度、使用量、使用方法等の使用基準を遵守しましょう。
- ◎同一系統の薬剤の連用は耐性菌、抵抗性害虫の出現や助長をまねくので、農薬のローテーション使用を心掛けましょう。
- ◎農薬の使用にあたっては、危害の未然防止や環境の保全に努め、農薬事故防止対策を徹底しましょう。
- ◎農薬を使用する際、農薬のラベルに記載された登録内容、使用上の注意事項等を遵守し、農薬の散布にあたっては、農薬の種類に応じた保護具を必ず装着しましょう。